

令和 6年度 学校経営方針

北九州市立大谷中学校
校長 和田 義則

○学校教育目標

「人間尊重の精神を培い、自主的で創造性豊かな、知・徳・体の調和のとれた心身ともに
健康な生徒の育成を目指す」

○校訓 「実行・真実・敬愛」

- 目指す学校
- ・ 全ての生徒・職員が楽しく通う学校
 - ・ 地域や保護者に信頼される学校
 - ・ 健康で安全に過ごせる学校

- 目指す教師像
- ・ 生徒理解の視点に立ち、優しさと厳しさを兼ね備え、優れた指導力を持つ教師
 - ・ 生徒や保護者から信頼され、広い視野、高い見識、社会的責任、行動力を持つ教師
 - ・ 新しい学力観・評価観に立ち、授業改善に努める教師
 - ・ 生徒及び教師自身の健康と安全を最善の努力を行う教師
 - ・ 教育改革や学校の課題に主体的に対応できる教師
 - ・ 保護者・地域からの信頼を得るため、積極的に連携に努める教師

- 目指す生徒像
- ・ 自ら学び、自ら考え、自分の目標に向かって努力する生徒
 - ・ 決まりを守り、善悪を正しく判断し、責任を持って行動できる生徒
 - ・ 自他の生命や人権を尊重し、相手を思いやることのできる生徒
 - ・ 豊かな心を持ち、主体的に活動し、奉仕的精神に満ちた生徒
 - ・ 安全に留意し、体力の向上や健康の保持増進を図る生徒

本年度の重点目標

「これからの時代を豊かに生きる生徒の育成を図る」

- ※ 生徒の良さと課題を共感し、自尊感情と有用感を育て、信頼関係を高める。
- ※ 合理的配慮に基づく、生徒が学ぶ楽しさを実感する授業改善
- ※ これからの時代の学校教育の推進（学校行事の変革・情報教育等）

- 三部会における PDCA によるスクールプランの実践
- 学習規律の徹底、基礎基本の確実な定着と自ら学び考える力を育てる学習指導の推進
- 生徒の心を育てる学校行事・学年行事・各教科・道徳の授業等の創造と実践
- 全教育活動におけるデジタル教育の推進
- 個性に応じた合理的配慮を重視する特別支援教育の推進
- 「時を守り、場を清め、礼を正す」を基本方針として規範意識を育て、自己実現を目指すきめ細かな生徒指導
- 全ての生徒（不登校生徒も含む）の学習の場と進路指導の充実
- 健康で安全な生活や学習の場としてふさわしい教育環境の整備
- 小中一貫教育の積極的推進
- 校区における健全な青少年育成を目指した教育活動の推進（学校地域学校共同活動本部）
- 教員の働き方改革を目指した学校教育活動の変革（校務分掌・学校行事等の積極的改善）

目標達成のための方策

(1) 学年・学級経営

- ・ 学年及び学校全体をチームとして、全職員・生徒が支え合う学級・学年集団をつくる。
- ・ 生徒の豊かな心（自尊感情・有用感・規範意識等）が育つ様々な取組を工夫・充実させる。

(2) 学力向上・体力向上

- ・ 生徒個人の課題について合理的配慮を行い、基礎基本的の確実な定着と、思考力を高める授業の創造に努める。
- ・ タブレットの活用推進（教員の情報教育技術の向上）
- ・ 授業の最大の基本である学習規律や学習習慣を確立する。
- ・ 「運動の好きな生徒」「運動量の豊富な生徒」の育成を重視した授業と行事等の創造を図る。

(3) 健全な豊かな心の育成

①生徒指導・不登校対応、小中一貫教育推進

- ・ 生徒の心を育てる・変える信念をもつ。「是は是、非は非」は毅然として叱る。そして笑顔で褒める・認める。
- ・ 積極的な生徒指導を中心に、共通理解による組織的かつ迅速で適時・的確な生徒指導をチームとして行う。
- ・ いじめを絶対に許さない教師集団として信念をもち、いじめに立ち向かう。
- ・ 不登校生徒に対して、あらゆる関係機関との効果的な連携を図り、多様な学びの場を設定し進路実現を図る（ステップアップルームの活用、オンライン授業・教育委員会施策の活用、SSWによる専門機関との連携）
- ・ 将来の夢と可能性を育み、「生き方を学ぶ」を学ぶ多面的な進路指導の充実

②特別支援教育・道徳教育・人権教育・健康教育

- ・ 校区及び校内において個の課題を把握し、共通認識のもとに合理的配慮による授業や指導を推進する。
- ・ 教育活動全体を通して道徳教育の充実を図り、自己存在感を得ることが出来る能力や態度を育成する。
- ・ いじめやあらゆる差別を許さない人権尊重の精神を育てる人権教育を推進する。
- ・ 保健体育科と、特別活動等との横断的な指導を工夫し、心身ともに健全な生徒の育成を図る。
- ・ 学校給食の重要性を認識し、衛生的で落ち着いた雰囲気の中で給食指導を行い、残食率を軽減する。

(4) 健康で安全な学校づくり

- ・ 感染症対策、生徒のけがやアレルギー対応に対して、迅速・適切な対応と組織的な未然防止策を図る。
- ・ 生徒及び教職員の心身の安全と健康確保と第一として、組織的・環境的対策を図る

(5) 教育環境の整備（働きやすい・学びやすい学校）

- ・ 校舎の改修や備品の購入に努め、生徒及び職員、一般市民にとって安心安全な教育環境の整備に努める。
- ・ IT教育推進と教職員が目指す教育に必要な教育環境の整備を積極的に行う。

(6) これからの教師としての生き方を考える。（業務改善・人事育成・綱紀粛正）

- ・ 教職員相互のより良い人間関係を基盤にした職場づくりを目指す。
- ・ 次世代に向けて人材育成を行う教師集団になる。
- ・ ワークライフバランスの充実、業務改善、病休0、不祥事0

(7) PTAや地域との連携（大谷中学校区地域学校協働活動本部・コミュニティースクールの推進）

- ・ 大谷中区小学校（大谷小・鞆ヶ谷小）及び地域との連携を図り、地域での教育力を高める。
- ・ PTAや地域行事へ携を深め、地域との信頼関係を構築する。
- ・ 子天山笠の参加を通して、地域の教育力による健全な生徒の育成と、日本の伝統文化の理解を図る。

言平価

- ・ 「楽しく学校に通っている」での、生徒のA、B評価を95%以上にする。
- ・ 「落ち着いた雰囲気の授業」での、生徒・保護者のA、B評価を80%以上にする。
- ・ 「適正な評価」での、保護者のA、B評価を90%以上にする。
- ・ 「好ましい友人関係」での、生徒・保護者のA、B評価を95%以上にする。
- ・ 総合評価からCを無くす。